

警城時報

行發日十二
編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 警城時報社
一部金貳圓 一月金廿圓
廣告料一行十四字計五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

平署演武場落成式

きのふ盛大壯麗に舉行

三井榮一氏に感謝状

平署武徳殿竣工式は十九日午前十時盛大壯麗に執行された、來賓百余名、木香芳はしい殿堂に参列、宮城遙拜、麒麟、神官の修飾の後、平署長挨拶をのべ、全工費一万三千圓の寄附者三井榮一氏に對し感謝状を贈り、木村警務課長、縣議代表小野晋平、石城町村長會長伊藤淺之助、一般代表青沼銜太郎、平市警防團長關内正一各氏の祝辭あり、過般平署で獲得した武徳優勝旗三〇の披露を行ひ武徳大會に移つたが小學兒童劍道試合は尋常科参加校四校、高等科八校で結果左の如く尋常科は平第三校、高等科は錦校優勝した

▲遠藤恒正(好間古河)2益田賢橋(同)3諏訪正太郎(警崎)▲柔道(高點試合段外) / 支部賞 齋藤忠治(平商)2佐川尚平(同)3石川正喜(同)4根本勳(同)5海葉之(植田)▲劍道有段者 / 立花久幸、2吉田博、3島本啓三、4渡邊馨根

縣下警察官武道大會

劍道は二本松再勝

第二十四回縣下警察官武道大會は二十日午前八時半から新築平署演武場で舉行、参加選手、劍道共に六十四名宛で、定刻選手一同宮城を遙拜し知事訓示(代理高橋警察部長)後前回の優勝二本松警察署代表から優勝旗返還あり試合に移つたが、劍道は二本松再び優勝旗を獲得した

▲個人試合
/ 兒山亘(平第一)2高萩久米雄(平第三)3飯島賢(平第一)4久野新平(平第三)5石山達夫(平第一)

▲個人試合
/ 錦校(三三三)2平第一校(三〇三)3夏井校(二〇三)4草野校(一四三)

▲個人試合
/ 星康夫(錦)2安田不二夫(平第一)3山野邊益雄(錦)4村上正義(錦)5菊地武雄(平第一)

▲銃劍術(高點試合)
福島 中村
四倉 小野新町
矢吹 石川
飯坂 浪江
坂下 猪苗代

商港工事の復活に

縣議代表上京

主務省に猛運動

小名濱商港第二期工事は大藏省石城郡下の十五年度海軍志願兵に於て豫算に計上されず削除に内定した旨報の如くであるが縣では縣議を代表委員に選び大藏省に復活を要求する事となり委員に草野三郎、坂本龜太郎、赤津庄兵衛、蓮沼龍輔、關内正一の各氏を挙げ二十一日上京猛烈な運動を行ふ事になつた

支那人と運動會

北支派遣軍 菊地部隊通信

十二月二十六日〇分遣隊は愛護村運動會を催すことになつて居た。各愛護村區にそれ招待状が發送されたことは勿論である。運動會、この文字に出會して文字の國に生れた愛護村民は首をひねつた。一体なんだから、考へない結果が愛護村に對して非常な要求が出されるに違へない。黙つて知らんふりをするに限りと衆議が一決した。

近村合併問題で

市當局に忠言

市議萩原義雄氏から

平市では平窪村を合併して市制努を拂つてゐないので市議萩原を布く際將來赤井村、好間村、養雄氏は約束は履行する義務が飯野村、内郷村、神谷村等に對するのだから成否は別問題としその一部分の合併を交渉する努力を拂はねば市民に相濟ま事を條件としたが、市當局ではねでもないかと十八日市當局を市制施行後問題に對し何等の鞭撻する處があつた

ロープ切斷の原因は

會社當局の怠慢

係員二名を送局

既報、去る十四日市内郷村神奈川炭礦内で石炭滿載の炭車捲上作業中ロープが切斷死傷者四名を出した事件は、平署で關係者を調査した結果去る四日新らしいロープに取かへたが取付に不備の點があるのを抗夫が発見し機械主任堀川鶴吉(四五)機械取付夫齋藤清(五四)の兩名に對し修理を交渉したがこれに應じなかつたため惨事を起したもので、九日郡山市で開催、接戦の結果平署では右兩名を業務上過失傷害平市の選手壓倒的に優勝した害致死罪として送局する筈である

阿地住職

石双代表で出席

赤井村華藏院住職阿地隆隆師は本月三十日から來月四日まで明治神宮外苑日本青年會館に開かれる全日本司法保護事業聯盟主催の司法保護委員講習會は石城雙葉保護區代表として出席する

籠球大會に

平校優勝

北野神社祭 平校優勝
北野神社祭は二十四日午前十時から市内平窪字岩間村北野神社裏中ロープが切斷死傷者四名を出した事件は、平署で關係者を調査した結果去る四日新らしいロープに取かへたが取付に不備の點があるのを抗夫が発見し機械主任堀川鶴吉(四五)機械取付夫齋藤清(五四)の兩名に對し修理を交渉したがこれに應じなかつたため惨事を起したもので、九日郡山市で開催、接戦の結果平署では右兩名を業務上過失傷害平市の選手壓倒的に優勝した害致死罪として送局する筈である

記者はこの欄で、無邪氣に、無遠慮に、後先を考へないで聯絡に心をとめず、統一などには尙更目をくれず、フト浮んだ心の影を露く事にするどうせ、忙しい編輯を終へてホツとした際の仕事だから確なものを書けないに決つてゐる。法螺もあらうし、戲言や憎まれ口、提灯泥事等もあらう。豫め御諒承を乞ひ度い。

千葉第二校長は學校經營に於ては縣下屈指の敏腕家であるだけに今度名案を考へ出し十七日から實行に移した。學校内の燃料を如何にして節約するかの名案を御紹介する。ストーブを抜きにして、木炭にも筆を絶ち教員室と校長室に煉炭火鉢を置く。一個十三錢以下のものでは湯が不足するが朝七時から翌朝まで火がながる。十二時以後の火は勿体ないとして、煉炭を横に半分に分けて使つた。夕刻からは十二時に消える。夕刻からは十二時の火鉢を宿直室に移して保温に使う。半分は使つて使ふ處が名案である。

尋常科 男 平第一校
高等科 女 平第二校
尋常科 女 若松校
岡田生

精動通信

交通事故の死傷物件損害で

戦闘機が百七十臺買へる

十一月は交通安全デー

交通安全デーは昭和三年四月上を占め、これ等の物件損害が三日より五日まで、東京の交通に治癒費等一切を合算すれば、協同が警視廳、東京市の後援の一年に一千二百萬圓の損害額と下に行つたのが始めて、爾來毎なり、これによつて戦闘機が四年四月と十一月の春秋二季に三に百七十臺以上買へるとは何と回つて決定して行ふことになり勿体ない話である。要するに、在郷軍人團や青年團員等が胸にそれこれも精神の弛緩がもとマークをつけ、街頭にて交通整理である、精神の修練と緊張に理をなし、親切に歩行者を訓練して聖域下の心構へを一段と強して来た、これは東京のことで化するにより、その根本をあるが、大都市はもとより全国に波及せねばならぬ。

交通機関の發達につれて、交通事故の事故が日に増し多くなつて来た、昭和七年以來、東京

適正價格……秋冬荷揃へ

常に商品豊富

御用命は……

平市 三井呉服店へ

だけの交通事故は年々三萬五千件以上、即ち一日百件、負傷者二万人以上、その内死者は五百人近く、物件損害は四十五六萬圓より五十萬圓に上るといへる、これは流行病よりも數に於て遙かに大きい。

これ等事故の原因は、自動車に起因するものが七割に及び、その大部分は回タグである、これは双方とも不注意不馴れによるのであるから、大いに訓練し豫防せねばならぬ、更に車道橋断による原因の事故が五千件以

御誂に既製品

電話三八六番

洋酒と喫茶

個人のサービス

タイラ・キングザ通り

電話二一〇番

金融無盡
簡易啓城無盡
趣味貯蓄

出張所縣内各町

開業

こんかつ

専門の店

御ひいきをお願致します

平市仲田町

かの家

電話四六五番

冷凍魚

鯛 鮭 金頭 帆立貝
エビ イカ 貝焼 其他

日本水産特約(電話三六三三)

卸小賣平製氷會社

尾瀬平代理店 下平魚問屋

夜間診療

腸胃病科 胃腸病科 花柳病科 泌尿器病科 皮膚病科 肛門病科

門專

院醫科腸胃性村松

(番七〇一電)町南市平

秋より冬にかけて=婦人洋品

シヨールと防寒具

可愛い子供さんの
お帽子とお洋服

豊富陳列して御座います

平電一四〇 ツルヤ

國策線上ノ改良品

鑄物の代用品生る

セメント製マンホール 金三三錢各種
同 風 窓 網 金五五錢各種

平市南町二〇

發賣元 野内商會

電話一一番

燒土管 在庫豊富

御婚禮御着附

パールマントウエープ

御婚禮用髪を御利用下さい

和洋結髪
オゾン美顔術
御染髪洗毛術

平市驛前

水野化粧院

電話(六七八)營業所
(五二五)自宅

料料理

天婦羅

一月

平市

電話



ダンス・鏡臺

御婚禮調度品を

取揃へました

是非

和久井屋

御越下さい

平市一丁目【電話四〇五番】

平市田町(電話五二三番)

高久病院

院長 高久 忠
副院長 赤羽 清
藥局長 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科

花柳病科 泌尿器科 皮膚科

門專

診療 午前八時より
午後九時まで

時間 午後九時まで

(入院隨意)

平市田町【電話六九二】

江尻醫院

醫學博士 江尻伊三郎